

設問別調査結果 [小学校算数A：主として知識]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（％）	
			札幌市	全国（公立）
学習指導要領の領域	数と計算	8	◆	74.1
	量と測定	5	●	74.1
	図形	3	◆	83.1
	数量関係	3	●	65.7
問題形式	選択式	7	◆	76.5
	短答式	12	◆	72.8
	記述式	0		

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			札幌市		全国（公立）		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率（％）	無解答率（％）	正答率（％）	無解答率（％）	
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 ○・・・3.1ポイント以上 ◇・・・0.1ポイント～3.0ポイント —・・・ほぼ同程度 ◆・・・0.1ポイント～3.0ポイント ●・・・3.1ポイント以下														
1（1）	243－65 を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	○						○	◆	0.3	86.9	0.2	
1（2）	27×3.4 を計算する	小数の乗法の計算をすることができる	○						○	◆	0.7	84.3	0.4	
1（3）	912÷4 を計算する	除法の計算をすることができる	○						○	◆	2.4	89.6	1.8	
1（4）	8－0.5 を計算する	小数の減法の計算をすることができる	○						○	◆	1.9	83.2	1.2	
1（5）	6÷5 の商を小数で表す	商が小数になる除法の計算をすることができる	○						○	◇	2.1	86.0	1.7	
1（6）	50＋150×2 を計算する	加法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				○			○	●	1.0	65.9	0.8	
2（1）	8mの重さが4kgの棒の1mの重さを求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、除法が用いられることを理解している	○						○	●	4.1	53.8	3.6	
2（2）	2ℓのジュースを3等分したときの1つ分の量を分数で表す	数量を等分したときの1つ分を分数で表すことができることを理解している	○						○	○	5.9	40.2	5.4	
3	長方形の黒い部分を表す分数を選ぶ	等分してできる部分の大きさを表すのに分数が用いられることを理解している	○						○	◇	0.9	68.6	0.8	
4（1）	円を分割して並べたときにできる長方形について、縦の長さが円のどの部分に当たるかを選ぶ	円を分割し、並べ替えて作った長方形の縦の長さについて理解している		○					○	◆	1.6	80.1	1.0	
4（2）	円を分割して並べたときにできる長方形について、横の長さが円のどの部分に当たるかを選ぶ	円を分割し、並べ替えて作った長方形の横の長さについて理解している		○					○	◆	1.6	55.3	1.0	
5（1）	三角定規が示された場面で、60°の補角の大きさを求める	補角の大きさを求めることができる		○					○	◆	3.6	82.7	2.3	
5（2）	上底3cm、下底7cm、高さ4cmの台形の面積を求める式と答えを書く	台形の面積の求め方を理解し、面積を求めることができる		○					○	●	4.6	70.1	2.5	
6	立方体の展開図をかく場面で、5つの面が示されたとき、残りの1つの面をかく場所を選ぶ	立方体を展開図から構成できる			○				○	◇	1.8	88.3	1.4	
7	方眼紙上で、3点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置を選ぶ	平行四辺形の定義や性質について理解している			○				○	●	2.5	76.1	1.9	
8（1）	長方形を1本の対角線で切って組み合わせてできた図形の面積が、元の長方形の面積と比べてどれだけの大きくなるかを選ぶ	図形の一部を移動して形の異なる図形に変形した場合に、面積が変わらないことを理解している		○					○	◆	3.1	82.2	2.6	
8（2）	長方形を1本の対角線で切って組み合わせてできた図形の名前を選ぶ	二等辺三角形の定義や性質を理解している			○				○	◆	2.9	84.7	2.5	
9（1）	じゃがいも畑の面積40㎡が、学校の畑の面積50㎡のどれだけの割合に当たるかを書く	割合の意味を理解している				○			○	◆	11.0	57.4	10.4	
9（2）	折れ線グラフを読み、気温の上がり方が最も大きい時間を書く	折れ線グラフから、増え方が最も大きい区間を読み取ることができる				○			○	◆	4.5	73.8	4.3	

【設問分析】

1 四則計算

①は、整数、小数、の計算をすることができるかどうか、除法の結果を小数で表すことができるかどうか、また、四則の混合した計算をすることができるかどうかをみるものであり、整数の計算2問、小数の計算が2問、商が小数になる計算が1問、加法と乗法の混合した計算が1問の計6つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・繰り下がりのある減法「 $(3\text{位数}) - (2\text{位数})$ 」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・小数の乗法「 $(\text{整数}) \times (\text{小数})$ 」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（3）】

- ・整数の除法の計算「 $(3\text{位数}) \div (1\text{位数})$ 」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（4）】

- ・小数の減法「 $(\text{整数}) - (\text{小数})$ 」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（5）】

- ・商が小数になる除法「 $(\text{整数}) \div (\text{整数})$ 」の計算では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問（6）】

- ・加法と乗法の混合した整数の計算では、全国の平均正答率を下回っている。

「数と計算」領域における「四則計算」については、過去3回と同様、全国平均を下回っているものが多い。特に、小数の計算においては、小数点の扱いを間違える誤答が多く見られたことから、乗法の計算で、乗数を10倍すると積も10倍になるという計算の性質や、積の見当をつけて、計算結果の確認に生かすことなどについて指導の充実を図ることが大切である。

「数量関係」領域における「加法と乗法の混合した整数の計算 $(50 + 150 \times 2)$ 」では、式の左から順に計算する誤答が37.3%となっていることから、加法を先に計算した場合と、乗法を先に計算した場合とでは、計算結果が異なることを指導するなど、計算のきまりについての理解を深めることが重要である。

計算は、様々な問題場面で活用するものであり、正しく計算できることが重要である。既習の内容と関連付けながら、数と計算の意味や仕組みについて学習する場を十分に保障するとともに、一人一人の学習状況に応じて十分習熟を図るようにしたい。

2 除法の意味

②は、示された問題の文章から除法を用いると判断すること、被除数に当たる数と除数に当たる数を判断することができるかどうかをみる設問であり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・商が1より小さくなる等分除 $(\text{整数}) \div (\text{整数})$ の場面で、除法が用いられることの理解については、全国の平均正答率を下回っている。

【設問（2）】

- ・数量を等分したときの1つ分を求めるために除法が用いられること、商を分数で表せることの理解については、全国の平均正答率を上回っている。

「数と計算」領域における、「商が1より小さくなる等分除の場面で除法が用いられること」については、全国平均正答率を下回っている。 $4 \div 8$ と立式するところを $8 \div 4$ と立式している誤答が34.4%見られる。これは(整数) $\div$ (整数)の除法では、被除数が除数より大きくなると考えられる。示された数量を図に表す活動を取り入れ、数量の関係を考え、用いる演算を判断できるようにする指導の充実が求められる。

「数と計算」領域における「数量を等分したときの1つ分を求めるために除法が用いられること、商を分数で表せること」については、全国平均正答率を上回っているが、「3等分」という表現にのみ着目して $1/3$ としている誤答も見られるため、「 $2 \div 3$ 」の商を「 $2/3$ 」と表す理由を考える活動などの指導が大切である。

3 分数の意味

③は、等分してできる部分の大きさを表すのに分数が用いられることを理解しているかどうかをみる設問である。

- ・分数の意味についての理解については、全国平均正答率と比較して、やや上回っている。

「数と計算」領域における「分数の意味」については、全国平均正答率と比較して、やや上回っている。今後も、表し方が異なっても大きさの等しい分数があることを理解できるようにする指導や、分数の意味は、等分したもののいくつ分、整数の除法の結果、一方を1としたときの大きさの割合など、様々なとらえ方ができることを理解できるようにする指導が大切である。

4 円の面積の求め方

④は、円の面積の求め方を考える際の等積変形の仕方について理解しているかどうか、その様子が示された図を基に、各部分の長さを元の円と対応させて考えることができるかどうかをみる設問であり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・円を分割し、並べ替えて作った長方形の縦の長さの理解については、全国平均正答率と比較してやや下回っている。

【設問(2)】

- ・円を分割し、並べ替えて作った長方形の横の長さの理解については、全国平均正答率と比較してやや下回っている。

「量と測定」領域における「円の面積の求め方」については、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。円を実際に切って並べ替えるなどの作業的・体験的な活動を取り入れ、等積変形について理解できるようにする指導の充実が求められる。

5 角の大きさ、台形の面積

⑤は、角の大きさを求めることができるかどうか、また、基本的な平面図形の面積の求め方を理解しているかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・補角(2つの角の和が180度になるとき、一方は他方の補角であるという)の大きさを求めることについては、全国平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・台形の面積の求め方を理解し、面積を求めることができるかどうかについては、全国平均正答率を下回っている。

「量と測定」領域における「角の大きさ」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。実際に様々な大きさの角を作ってその大きさを調べたり、分度器で角の大きさを測ったりするなどの作業的・体験的な活動を取り入れた指導や、三角定規を活用して1つの角の大きさを2つの角の大きさの和や差としてみることができるようにする指導の充実が求められる。

「量と測定」領域における「台形の面積」については、全国の平均正答率を下回っている。「1つの台形の面積は、2つの合同な台形を組み合わせて作った平行四辺形の面積の半分なので、2で割る」というように台形の面積を求める公式の意味を説明できるようにする指導の充実が求められる。

6 立方体の展開図

⑥は、立方体を展開図から構成することができるかどうかみるものである。

- ・立方体を展開図から構成することについては、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「図形」領域における「立方体の展開図」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後も、辺や面のつながりやそれらの位置関係を考えて、展開図からできあがる立体図形を想像できるようにする指導の充実が大切である。

7 平行四辺形の作図

⑦は、平行四辺形の定義や性質について理解しているかどうかみるものである。

- ・平行四辺形の定義や性質の理解については、全国の平均正答率を下回っている。

「図形」領域における「平行四辺形の作図」については、全国の平均正答率を下回っている。紙に書かれた平行四辺形を対角線で2つに切り、向かい合う辺や角を重ねて、辺の長さや角の大きさを調べるなどの作業的・体験的な活動を通して図形の性質を見だし、理解できるようにする指導や、定義や性質を基に図形を作図できるようにする指導の充実が求められる。

8 図形の定義や性質

⑧は、面積の保存性を理解しているかどうか、また、基本的な平面図形の性質について理解しているかどうかをみるものであり、2つの設問で構成されている。

【設問（1）】

- ・図形の一部を移動して形の異なる図形に変形した場合に、面積が変わらないことを理解しているかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・二等辺三角形の定義や性質を理解しているかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「量と測定」及び「図形」領域における「図形の定義や性質」については、2問とも全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。等積変形によって既習の求積可能な図形に置き換えて、図形の面積を求める学習において、面積の保存性を意識できるようにする指導や、図形の定義や性質を根拠にして図形を弁別できるようにする指導の充実が求められる。

9 割合、折れ線グラフ

⑨は、割合の意味について理解しているかどうか、また、折れ線グラフから変化の様子を読み取ることができるかどうかをみるものであり、2つの設問で構成されている。

【設問（1）】

・割合の意味を理解しているかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（２）】

・折れ線グラフから、増え方が最も大きい区間を読み取ることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数量関係」領域における「割合、折れ線グラフ」については、２問とも全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。数量をテープ図や線分図に表す活動などを通して問題の場面から基準量と比較量をとらえて割合を求めることができるようにする指導や、割合には様々な表現があることを理解できるようにする指導、グラフから数値を読み取るだけでなく、ある区間や部分に着目してグラフを読み取ることができるようにする指導の充実が求められる。

設問別調査結果 [小学校算数B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	1	◆	55.8
	量と測定	1	◆	33.3
	図形	5	◆	42.0
	数量関係	6	◆	54.3
問題形式	選択式	5	◆	59.1
	短答式	2	◆	69.0
	記述式	5	◆	31.6

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				問題形式			札幌市		全国(公立)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)	
表中の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。 ○・・・+3.1ポイント以上 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント ー・・・ほぼ同程度 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント ●・・・-3.1ポイント以下														
1 (1)	えんぴつ1本の定価を整数にするために、おつりの金額を何円に変えればよいかを選ぶ	示された式を解釈し、えんぴつ1本の定価が整数になるおつりの金額を判断できる	○					○			◆	0.8	55.8	0.6
1 (2)	おつりを正しく求められるように式に () を書き加える	計算の順序についてのきまりを理解し、最初に考えた式に () を書き加えて正しい式に修正できる					○		○		◆	12.6	42.2	12.1
2 (1)	本立ての部品の図を見て、どのような長方形かを書く	平面上にかかれた立体図形や平面図形を基に長方形の大きさを考え、それを記述できる			○				○		◆	15.9	31.7	13.6
2 (2)	示された部品を組み立てて、作ることができる本立てを2つ選ぶ	示された平面図形を基に台形の大きさを考え、平面上にかかれた立体図形と対応付けることができる			○		○				●	1.9	65.6	1.6
3 (1)	3つの円グラフを見て、けがが最も多く起こった場所を書く	示された3つの円グラフから目的に合うものを選び、必要な情報を読み取ることができる				○		○			◆	1.8	95.9	1.1
3 (2)	二次元表の中の数に何を意味しているのかを書く	二次元表の中の数が表す事柄を2つの項目と単位に着目して読み取り、その内容を記述できる				○			○		◇	5.6	61.4	3.6
3 (3)	二次元表の一部分の数を使ってかくことのできる円グラフを選ぶ	二次元表に示された数の意味を考え、円グラフと関連付けることができる				○	○				◆	1.8	40.0	1.2
4	平行四辺形から台形に図形を変えて、示された2つの三角形の面積が等しいことの説明を書く	平行四辺形に対してなされた説明を解釈し、それを台形に適用して、説明を記述できる		○	○				○		◆	26.1	33.3	22.0
5 (1)	定価1000円の図に対して、定価の30%引き後の値段を表している図を選ぶ	基準量と比較量の関係を表している図を判断できる				○	○				◇	2.6	69.0	1.9
5 (2)	割引券を使うと値引きされる金額が最も大きくなる商品を選び、そのわけを書く	割合が一定の場面で、比較量が最も大きくなるときの基準量を判断し、その理由を記述できる				○			○		◆	5.1	17.1	4.5
6 (1)	バスのドアの下にできる三角形について、その名前を選び、判断のわけを選ぶ	与えられた条件や図形の定義、性質を基に、図形を判断し、その理由を選択できる			○		○				◆	3.5	64.8	3.1
6 (2)	バスのドアが動く様子を表した図を見て、円周の一部と直線の長さの大小についての正しい記述を選び、判断のわけを書く	示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を記述できる			○				○		◆	10.5	14.6	9.2

【設問別分析】

1 問題や式の解釈・修正(おつり)

①は、示された場面を解釈して、条件に合うように問題の中の数を考え、変更すること、計算の順序についてのきまりを基に、式を修正することができるかどうかみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問(1)】

- ・示された式を解釈し、えんぴつ1本の定価が整数になるおつりの金額を判断できるかどうかをみる
ことについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問(2)】

- ・計算の順序についてのきまりを理解し、最初に考えた式に()を書き加えて正しい式に修正でき

るかどうかをみることについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数と計算」領域における「条件に合うように問題の中の数を考え、変更すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。問題をつくる活動において、つくった問題を解いてみる活動を取り入れ、つくった問題が適切かどうかを現実の場面に即して吟味し、修正できるようにする指導の充実が必要である。

「数量関係」領域における「計算の順序についてのきまりを基に、式を修正すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。複数の式を1つの式（総合式）に表現し直す場を通して、計算の順序についてのきまりを用いて、総合式で表すことができるようにする指導の充実が必要である。

2 図形の観察・対応と数学的表現（本立て）

②は、示された図形を観察して、条件を基に、長方形の大きさを筋道立てて考え、数学的に表現すること、台形の大きさを筋道立てて考え、平面上にかかれた立体図形と対応させることができるかどうかをみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・平面上にかかれた立体図形や平面図形、与えられた条件を基に長方形の大きさを考え、それを辺の長さと言葉を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・示された平面図形や与えられた条件を基に台形の大きさを考え、平面上にかかれた立体図形と対応付けることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、下回っている。

「図形」領域における「長方形の大きさを筋道立てて考え、数学的に表現すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。基本的な平面図形をかいたり作ったりする場面で、辺を表す言葉や長さ、角の大きさ、図形の名称を用いて、図形を言葉で表現し合う活動を取り入れ、基本的な平面図形を算数の用語を使つて的確に表現できるようにする指導の充実が必要である。

「図形」領域における「台形の大きさを筋道立てて考え、平面上にかかれた立体図形と対応させること」については、全国の平均正答率と比較して、下回っている。得られた数値などを図に書き入れ、結論に至る思考過程を記録したり説明したりする活動を通して、問題に示された数値や条件を基に筋道立てて考えることができるようにする指導や、合同な図形が様々な図でかかれた場合に、辺や角を対応させて考えることができるようにする指導の充実が必要である。

3 情報の選択と資料の関連付け（学校でのけが）

③は、示されたグラフと表を基に、目的に応じて円グラフから情報を読み取ること、二次元表の中の数が表す事柄を読み取り、数学的に表現すること、二次元表と円グラフを関連付けて考えることができるかどうかをみるものであり、3つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・示された3つの円グラフから目的に合うものを選び、その円グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・二次元表の中の数が表す事柄を2つの項目と単位に着目して読み取り、その内容を表の中の言葉を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。

【設問（3）】

- ・二次元表に示された数の意味を考え、円グラフと関連付けることができるかどうかについては、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

「数量関係」領域における「目的に応じて円グラフから情報を読み取ること」については、全国
の平均正答率と比較すると、やや下回っている。複数のグラフを示して、その中から必要なグラフ
を選択し、情報を読み取る活動などを通して、目的に応じて必要な資料を選択できるようにする指
導の充実が必要である。

「数量関係」領域における「二次元表の中の数が表す事柄を読み取り、数学的に表現すること」
については、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。今後とも、二次元表の数の意味
を2つの項目及び単位に着目して読み取り、その数の意味を適切に表現できるようにする指導が大
切である。

「数量関係」領域における「二次元表と円グラフを関連付けて考えること」については、全国の
平均正答率と比較すると、やや下回っている。二次元表を用いて、数の意味を考え、部分と全体に
当たる数に印を付けるなどして数と数の関係を明確にし、実際に割合を求める活動などを通して、
二次元表とグラフを関連付けて考えることができるようにする指導の充実が必要である。

4 説明の解釈と振り返り（等しい面積）

【4】は、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の図形に適用して説明を考え、その説明を数
学的に表現することができるかどうかをみるものである。

- ・平行四辺形に対してなされた説明を解釈し、それを台形に適用して、示された面積が等しいことの
説明を言葉を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回って
いる。

「量と測定」及び「図形」領域における「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の図
形に適用して説明を考え、その説明を数学的に表現することができるかどうかをみること」につい
ては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。説明を基に、言葉の説明と図を対応させ
て他者の考え方を理解したり、その考え方をを用いて他の問題を解決したりする活動を通して、他者
が記述した説明を解釈できるようにする指導や、根拠や考え方を明らかにして言葉による説明を記
述することに慣れるようにする指導、問題解決に用いられる考えを意識して指導し、児童がその考
えに着目できるようにする指導の充実が必要である。

5 事象の数学的な解釈と判断の根拠の説明（買い物）

【5】は、割合が使われている場面を理解し、2つの数量の関係を判断し正しい図を選択すること、割合
の考えを基に、数の大小を判断し、その判断の理由を数学的に表現することができるかどうかみるもの
であり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・基準量と比較量の関係を表している図を判断できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較
して、やや上回っている。

【設問（2）】

- ・割合が一定の場面で、比較量が最も大きくなるときの基準量を判断し、その理由を言葉や式を用い
て記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「数量関係」領域における「2つの数量の関係を判断し、次のことができるかどうかみること」
については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。今後も、0.5 倍、0.25 倍などの割
合を「半分」「半分の半分」のような言葉と結び付けるなど、割合の考え方をを用いて数量の大きさを
大まかにとらえたり、数量の大小を判断したりすることができるようにする指導が大切である。

「数量関係」領域における「割合の考え方を基に、数の大小を判断し、その判断の理由を数学的
に表現すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。基準量、比較量、
割合を数で比べるだけでなく、テープ図や線分図の長さで比べる活動などを通して、割合が一定の
時に、基準量の大小から比較量の大小を判断できるようにする指導の充実が必要である。

6 事象の観察と論理的な考察（バス）

〔6〕は、日常の事象を数理的にとらえ、事象を観察して、図形を見いだすこと、示された考えを基に、長さの求め方と長さの大小を判断した理由を数学的に表現することができるかどうかみるものであり、2つの設問により構成されている。

【設問（1）】

- ・与えられた条件や図形の定義、性質を基に、事象から見いだした図形を判断し、その理由を選択できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問（2）】

- ・示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を円周の4分の1の長さを求める式と言葉を用いて記述できるかどうかについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「図形」領域における「事象を観察して、図形を見いだすこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。動きのある事象も含めて身の回りの事象から図形を見だし、その図形と見なすことができる理由を説明することができるようにするなどの指導の充実が必要である。

「図形」領域における「示された考えを基に、長さの求め方と長さの大小を判断した理由を数学的に表現すること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。どのように表現すれば求め方を表現できるかを話し合う活動などを通して、具体的な場面に対応させて思考過程を式で表現することの大切さを実感できるようにする指導の充実が必要である。

算数学習に関する意識結果 【小学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
算数の勉強は好きですか	35.8	26.2	21.7	16.1
算数の勉強は大切だと思いますか	70.8	19.8	6.3	2.8
算数の授業の内容はよく分かりますか	39.8	33.5	19.1	7.2
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	51.5	24.1	16.2	7.8
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	39.7	34.0	19.5	6.3
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	28.9	31.0	27.0	12.5
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	62.2	23.9	9.0	4.3
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	43.5	31.9	17.7	6.3
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	43.3	34.2	17.3	4.6
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	48.0	30.4	15.2	5.7

（単位は％）

＜設問分析＞

- 「算数の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、62.0％となっており、全国平均を1.8ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は66.1％である。今後、算数的活動を通じて、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付くことができるような楽しい算数の授業を進めていくことが求められる。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、90.6％となっており、全国平均を1.5ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は91.5％である。今後とも、実生活における様々な事象との関連を図ったり、体験的な算数的活動を工夫するなどしながら、算数の価値や算数を学習する意義が分かるような授業を行なうことが求められる。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、73.3％となっており、全国平均を4.7ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は76.2％である。今後、一人一人の学習実現状況を的確に把握し、個に応じた指導を充実することが重要である。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。」という質問では、

肯定的に回答した割合が、75.6%となっており、全国平均を 2.6 ポイント下回っている。昨年度調査において、肯定的な回答が 76.8%である。今後、既習を活用して新しい問題を解決することを大切に学習を充実することが大切である。

- 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、73.7%となっており、全国平均を 3.6 ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は 75.2%である。今後、多様な考え方を試すなど、試行錯誤しながら問題解決する学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、59.9%となっており、全国平均を 4.7 ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は 61.4%である。引き続き、日常生活の場面において算数が活用されているものを探すなど、算数の有用性を感じ取らせる指導の充実が求められる。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、86.1%となっており、全国平均を 2.9 ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は 86.8%である。今後とも、算数と日常生活との関連を図りながら、算数の有用性に気付かせるような指導の工夫が求められる。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、75.4%となっており、全国平均を 3.5 ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は 77.1%である。今後、より効率的な考え方を求めることを課題とした学習を充実するなど、課題意識を大切に学習の工夫が求められる。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、77.5%となっており、全国平均を 2.2 ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は 78.8%である。今後、公式やきまりなど、一般化された考え方や解決方法を探究する学習や、見付けた公式やきまりなどを言葉で説明し理解を深めるような学習などを取り入れるなど、授業を工夫することが求められる。
- 「算数の授業でも問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、78.4%となっており、全国平均を 2.4 ポイント下回っている。昨年度の調査では、肯定的に回答した割合は 79.3%である。今後、問題を見通しをもって筋道を立てて考え、ノートなどに、その考えを表現する学習を取り入れ、自分で問題を解決する力を高める指導の工夫が求められる。

